

日 時：令和6年11月18日

午後1時30分～

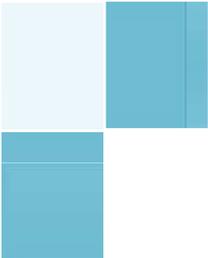
場 所：南砺市役所本館 302 会議室

第2回南砺市上下水道料金検討委員会

1. 開会
2. 南砺市上下水道事業の現状
3. 財務分析
4. その他
5. 閉会

【配布資料】 ・次第

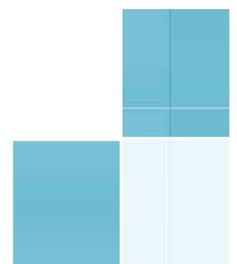
- ・南砺市上下水道料金検討委員会第2回委員会資料（水道事業）
- ・南砺市上下水道料金検討委員会第2回委員会資料（下水道事業）
- ・南砺市上下水道料金検討委員会第1回委員会ご意見一覧
- ・次回委員会日程調整表・ご意見メモ



南砺市上下水道料金検討委員会 第2回委員会資料（水道事業）



令和6年11月18日



第1章 経営と料金の現状と課題

1. 財政収支の状況

水道事業の経営は地方公営企業法において独立採算制で運営することが原則とされており、市民税などの税金ではなく、使用水量に応じた水道料金収入（＝給水収益）によって事業運営に係る費用を賄わなければならない。

本市水道事業の直近実績では、図1に示すとおり、人口減少に伴って給水収益は減少している。

一方、図2に示すとおり企業債残高は減少しているが、今後の建設改良費の増加に伴い増加が見込まれる。さらに内部留保資金も減少しているものの、経営維持に必要な10億円は確保している状況である。

また、表1より、給水原価（水道水を1m³供給するために要する費用）は類似団体平均と同等であるが、供給単価（水道水1m³あたりの収入）は類似団体平均を大きく下回っている。そのため、水道料金収入でどれだけの費用を賄えているかを示す料金回収率は100%を大きく下回り、類似団体平均と比較しても低い。これは、事業経営に必要な費用が水道料金収入だけでは賄えていないことを示している。

図1：収益的収支の実績

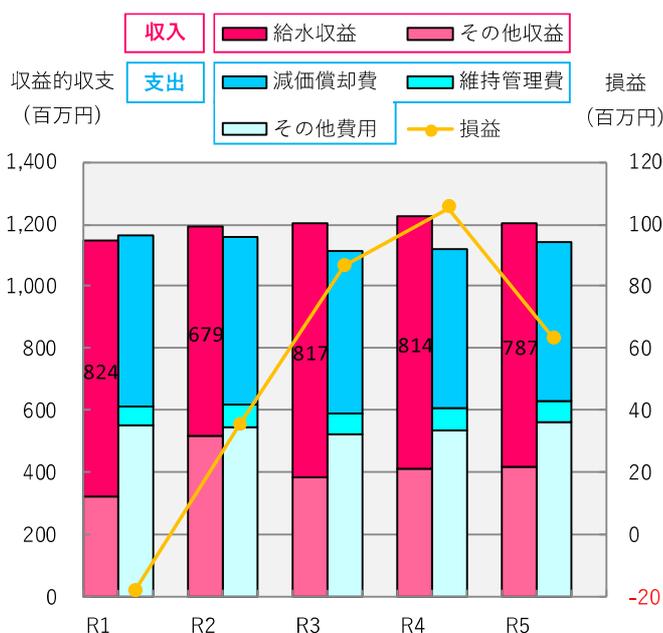


図2：資本的収支の実績

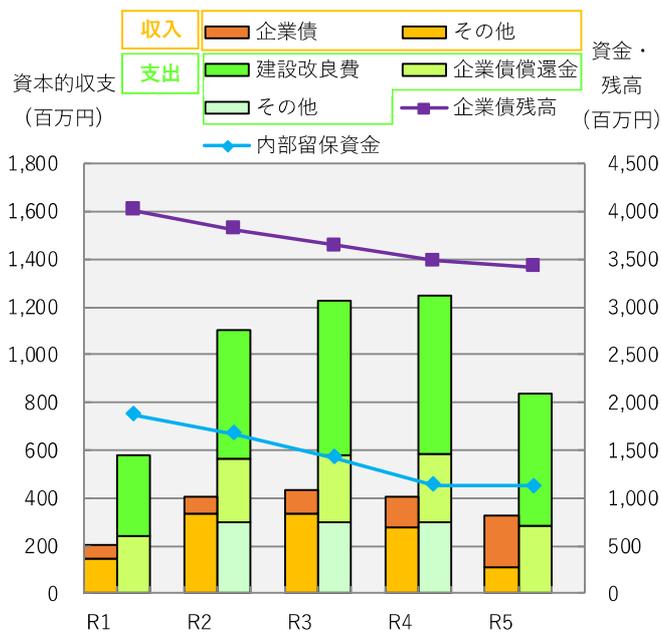


表1：経営指標比較

| 経営指標 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | 類似団体平均R4 | 全国平均R4 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|--------|
| 給水原価(円/m ³) | 205.79 | 202.17 | 196.99 | 197.60 | 210.66 | 212.40 | 174.75 |
| 供給単価(円/m ³) | 161.63 | 131.71 | 162.22 | 162.13 | 163.02 | 197.14 | 170.33 |
| 料金回収率(%) | 78.54 | 65.15 | 82.35 | 82.05 | 77.39 | 92.81 | 97.47 |

2. 料金収入・給水の状況

本市水道事業では、図3に示すとおり生活用水量に係る収入が全体の約7割を占めている。また、図4の口径別水量構成比率においても、主に一般家庭である口径φ13、φ20の割合が大部分を占めている。

表2の使用水量段階別の給水件数内訳より、単身世帯と想定される使用水量10 m³以下（基本水量以下）の世帯割合が最も多く、更に増加傾向となっている。

料金改定を検討するにあたっては、これらの高齢者等を中心とした単身世帯への過度な負担増加に配慮した料金体系の検討が必要となる。

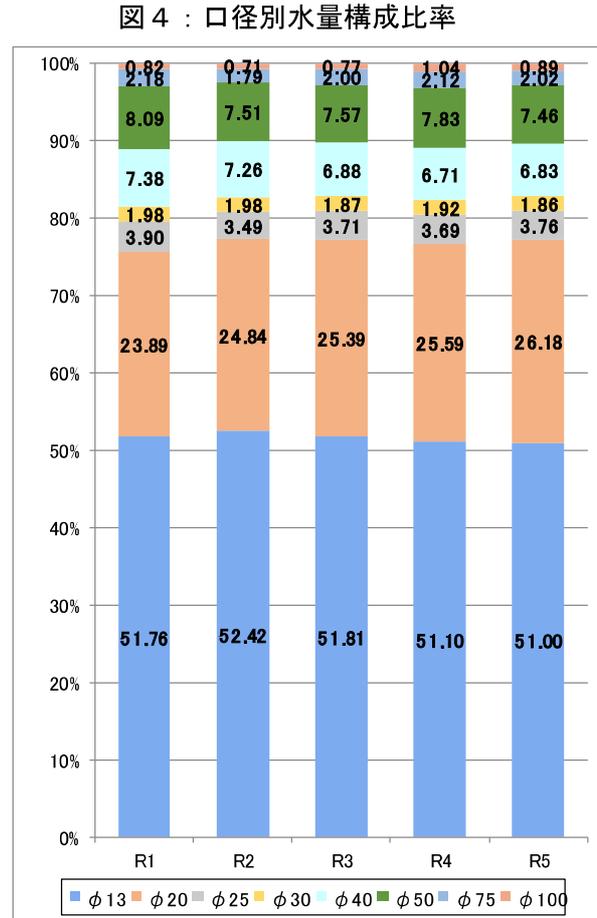
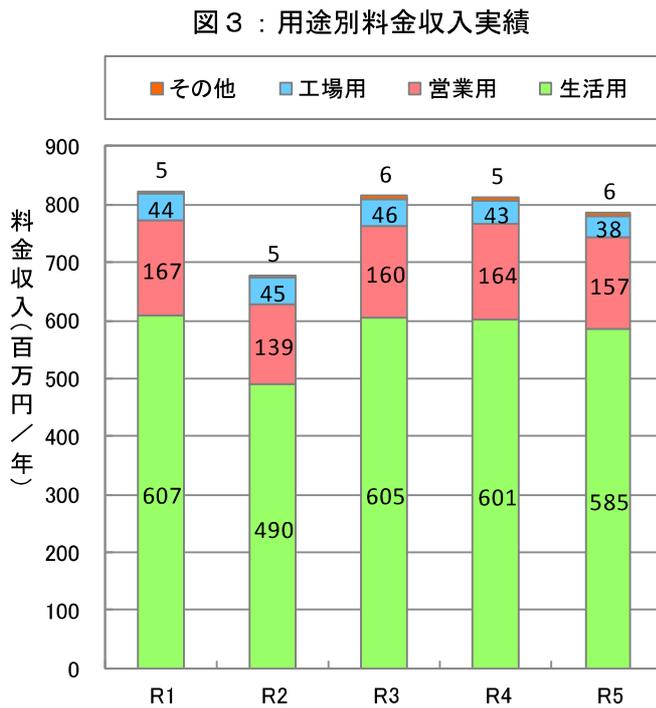


表2：水量段階別給水件数内訳

| 使用水量 (m ³ /月) | R1 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | |
|-----------------------------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|
| | 調定件数 (件/年) | 比率 (%) |
| 0 ~ 10 | 85,083 | 37.6 | 83,041 | 36.8 | 85,716 | 38.0 | 87,300 | 38.6 | 88,470 | 39.2 |
| 11 ~ 20 | 61,653 | 27.3 | 59,904 | 26.6 | 60,533 | 26.8 | 61,076 | 27.0 | 62,458 | 27.7 |
| 21 ~ 30 | 40,044 | 17.7 | 40,578 | 18.0 | 39,680 | 17.6 | 39,380 | 17.4 | 38,502 | 17.1 |
| 31 ~ 50 | 29,634 | 13.1 | 31,428 | 13.9 | 29,777 | 13.2 | 28,593 | 12.6 | 27,155 | 12.0 |
| 51 ~ 100 | 6,941 | 3.1 | 7,952 | 3.5 | 7,468 | 3.3 | 7,134 | 3.2 | 6,555 | 2.9 |
| 101 ~ 200 | 1,397 | 0.6 | 1,389 | 0.6 | 1,318 | 0.6 | 1,354 | 0.6 | 1,315 | 0.6 |
| 201 ~ 300 | 391 | 0.2 | 374 | 0.2 | 402 | 0.2 | 413 | 0.2 | 398 | 0.2 |
| 301 ~ 500 | 427 | 0.2 | 410 | 0.2 | 429 | 0.2 | 390 | 0.2 | 358 | 0.2 |
| 501 ~ 1000 | 202 | 0.1 | 217 | 0.1 | 189 | 0.1 | 232 | 0.1 | 233 | 0.1 |
| 1001 ~ | 318 | 0.1 | 286 | 0.1 | 302 | 0.0 | 291 | 0.1 | 261 | 0.0 |
| 合計 | 226,090 | 100.0 | 225,579 | 100.0 | 225,814 | 100.0 | 226,163 | 100.0 | 225,705 | 100.0 |

3. 料金水準と料金体系の状況

本市水道事業の水道料金は、1ヶ月当たり20m³使用時に3,190円と、富山県内の上水道事業体の中では中間的な水準であり、令和4年度の全国平均が3,317円、類似団体平均が3,735円であることから、全国や類似団体と比較しても料金は安価である。県内では表3に示すとおり氷見市が最も高く、滑川市が最も低い料金水準となっている（給水人口5,000人未満の簡易水道事業を除く）。

また、県内の料金体系は基本料金付きであることを除いて、料金区分や従量料金に対する加算方式は各自治体で異なっている。料金水準が高い氷見市では、基本水量は8m³とし、それ以上の使用水量に対しては水量の増加に応じて超過料金を段階的に上げる方式を採用している。

表3：県内の水道料金及び料金体系

| 事業体名 | 水道料金 (φ13、20m ³ /月) | 料金体系 | | | 年間1人あたり 水道料金 | 年間1人あたり 市町税収入(個人) |
|------------|-----------------------------------|------------|------------|--------------|-----------------|----------------------|
| | | 区分 | 基本料金 | 従量料金 | | |
| 氷見市 | 4,663円 | 口径別 | 単一制 | 段階別従量制 | 27千円/人 | 46千円/人 |
| 小矢部市 | 3,718円 | 用途別 | 用途別 | 用途別段階別従量制 | 23千円/人 | 50千円/人 |
| 立山町 | 3,636円 | 用途別 | 用途別 | 単一従量制 | 18千円/人 | 49千円/人 |
| 高岡市 | 3,438円 | 用途別 | 用途別 | 用途別段階別従量制 | 18千円/人 | 55千円/人 |
| 射水市 | 3,410円 | 用途別 | 用途・口径別 | 用途・口径別段階別従量制 | 21千円/人 | 55千円/人 |
| 上市町 | 3,190円 | 口径別 | 単一制 | 単一従量制 | 17千円/人 | 48千円/人 |
| 南砺市 | 3,190円 | 口径別 | 口径別 | 単一従量制 | 18千円/人 | 46千円/人 |
| 魚津市 | 3,080円 | 用途別 | 用途別 | 用途別従量制 | 14千円/人 | 54千円/人 |
| 砺波市 | 3,025円 | 口径別 | 口径別 | 段階別従量制 | 16千円/人 | 55千円/人 |
| 富山市 | 2,310円 | 口径別 | 口径別 | 口径別段階別従量制 | 14千円/人 | 62千円/人 |
| 黒部市 | 1,925円 | 口径別 | 口径別 | 口径別段階別従量制 | 11千円/人 | 57千円/人 |
| 滑川市 | 1,894円 | 用途別 | 用途別 | 用途別段階別従量制 | 12千円/人 | 55千円/人 |
| 類似団体平均 | 3,735円 | | | | | |
| 全国平均 | 3,317円 | | | | | |

口径別：メーターの口径の大小を基準とした料金設定 用途別：家庭用や事業用など使用目的ごとの料金設定

単一従量制：使用水量の多少に関わらず、1m³あたりの料金が同一

段階別従量制：使用水量の一定の範囲ごとに料金単価を設定

表4：南砺市水道事業の水道料金

| 口径 | 水道料金1箇所につき(消費税抜) | | | 口径 | 水道料金1箇所につき(消費税10%込) | | |
|--------|--------------------|-------------|-----------------------------|--------|---------------------|-------------|-----------------------------|
| | 基本水量 | 基本料金 (円) | 超過料金 (円/m ³) | | 基本水量 | 基本料金 (円) | 超過料金 (円/m ³) |
| φ13mm | ～10m ³ | 1,450 | 145.00 | φ13mm | ～10m ³ | 1,595 | 159.50 |
| φ20mm | | | | φ20mm | | | |
| φ25mm | ～20m ³ | 3,400 | | φ25mm | ～20m ³ | 3,740 | |
| φ30mm | ～30m ³ | 5,100 | | φ30mm | ～30m ³ | 5,610 | |
| φ40mm | ～50m ³ | 8,500 | | φ40mm | ～50m ³ | 9,350 | |
| φ50mm | ～100m ³ | 17,000 | | φ50mm | ～100m ³ | 18,700 | |
| φ75mm | ～200m ³ | 34,000 | | φ75mm | ～200m ³ | 37,400 | |
| φ100mm | ～200m ³ | 34,000 | | φ100mm | ～200m ³ | 37,400 | |

各事業体における年間の市町税収入を行政区域内人口で除して、一人当たりの市町税収入を整理し支払能力の指標とし、年間の水道料金収入を給水人口で除して、一人当たりの水道料金を整理し、料金水準の指標として整理した。

図5に示すとおり、本市水道事業においては、県内事業体と比較して支払能力の水準は低いが水道料金は中間的な水準である。

県内においても地形条件等の地域特性の違いから、水道に係る費用は大きく異なるため、本市水道事業の健全経営を継続するために必要な料金設定が必要となる。

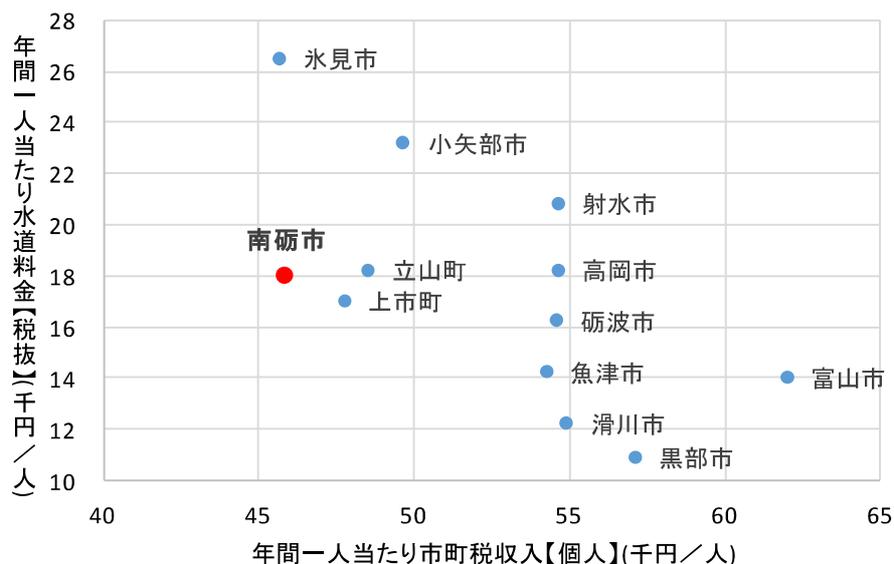


図5：県内事業体における年間一人当たり市町税収入と水道料金の関係値

※R6.4.30 現在、県内各市町の市町税税率は、いずれも個人均等割 3,000 円、所得割 6%である。

第2章 水需要予測

図6に示すとおり、直近5ヶ年において減少傾向を示している給水人口は、今後も減少傾向が継続するものと予想される。また、給水人口の減少に伴い給水量も減少傾向となる見込みである。

図7の用途別有収水量では、全体の大部分を占める生活用・業務営業用水量について直近実績で減少傾向を示しており、今後も減少する見込みである。

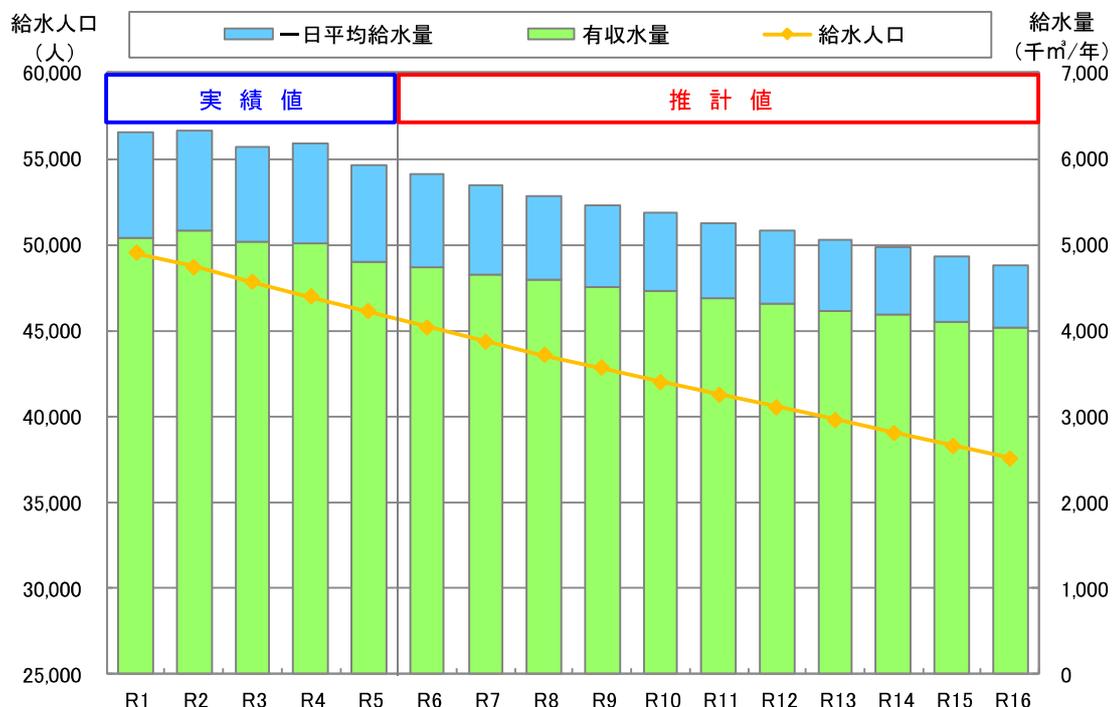


図6：計画給水人口及び計画給水量の推計

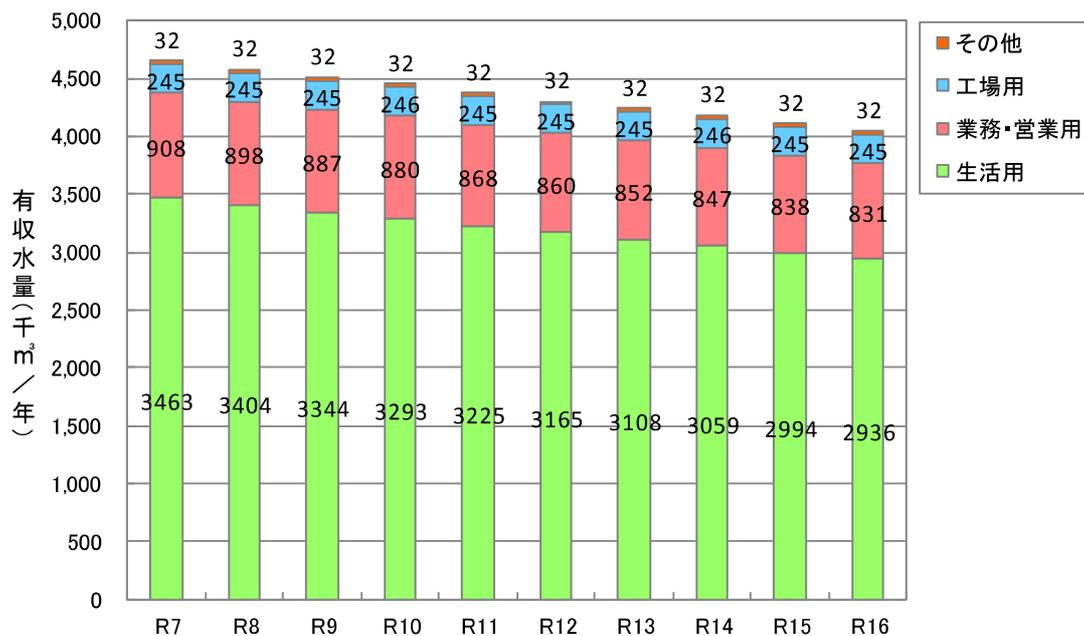


図7：用途別有収水量の推計

第3章 投資計画

1. 施設整備に係る費用

本市水道事業における取水から配水までの水処理フロー及び各工程において必要となる概算費用は図8に示すとおりとなる。

本市水道事業の資産の大部分は管路が占めており、配水管は全体の整備費用の約80%を占める。

また、本市は広い面積を有しているが、山間部が多く散居村が広がっている地域特性から、他の水道事業体と比較して施設数が多く、管路延長も長い。更に、このような地域特性から、水需要の減少に対して今以上の施設統廃合や管路のダウンサイジングが難しい状況である。

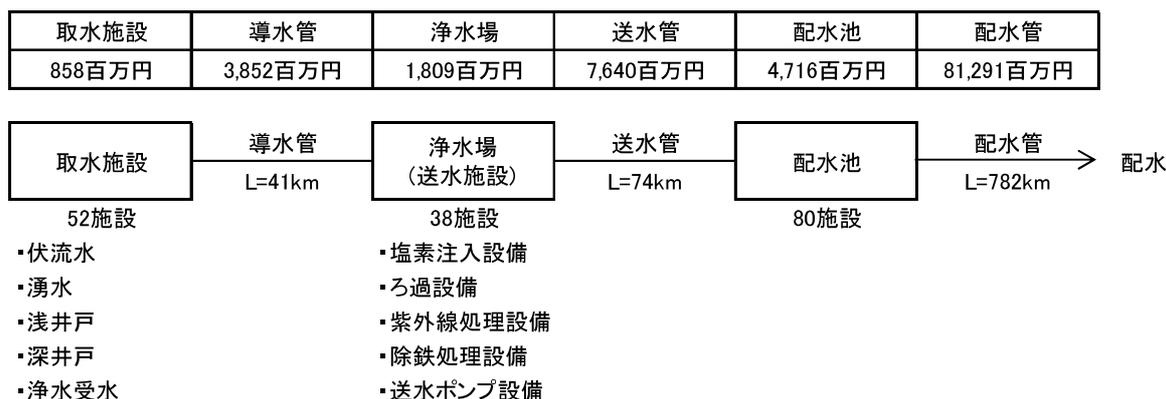


図8：水処理工程別概算整備費用

2. 年次別施設整備計画

本市水道事業においては、基幹管路の更新・耐震化や老朽管更新を継続して実施するとともに、基幹施設の耐震化更新、老朽化設備の更新を計画的に実施する予定である。

今後10年間における施設整備計画を表5に示す。

| 事業 | 区分 | 総事業費 | 単位: 百万円 | | | | | | | | | |
|------------|-----|-------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 |
| 基幹管路更新・耐震化 | 管路 | 3,280 | 200 | 200 | 360 | 360 | 360 | 360 | 360 | 360 | 360 | 360 |
| 老朽管更新等 | 管路 | 1,400 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 |
| 施設耐震化更新 | 構造物 | 573 | 9 | 81 | 26 | 80 | 80 | 80 | 55 | 36 | 63 | 63 |
| 設備耐震化更新 | 設備 | 1,363 | 157 | 172 | 124 | 172 | 122 | 122 | 122 | 122 | 125 | 125 |
| 事業費計 | | 6,616 | 506 | 593 | 650 | 752 | 702 | 702 | 677 | 658 | 688 | 688 |

表5：年次別事業計画

第4章 財政収支の見通し

1. 人件費・物価上昇の反映

国交省より公表されている水道事業に係る建設工事費デフレータ（物価指数）は、図9に示すとおり平成22年度から令和5年度の13年間で約1.36倍に上昇している。更に、富山県における最低賃金も物価上昇に伴い上昇しており、同期間で約1.37倍に上昇している。

これらの上昇は、今後も継続することが想定されるため、直近の上昇率に相当する年間2%の人件費・物価上昇を考慮し、今後の財政収支見通しを検討する。

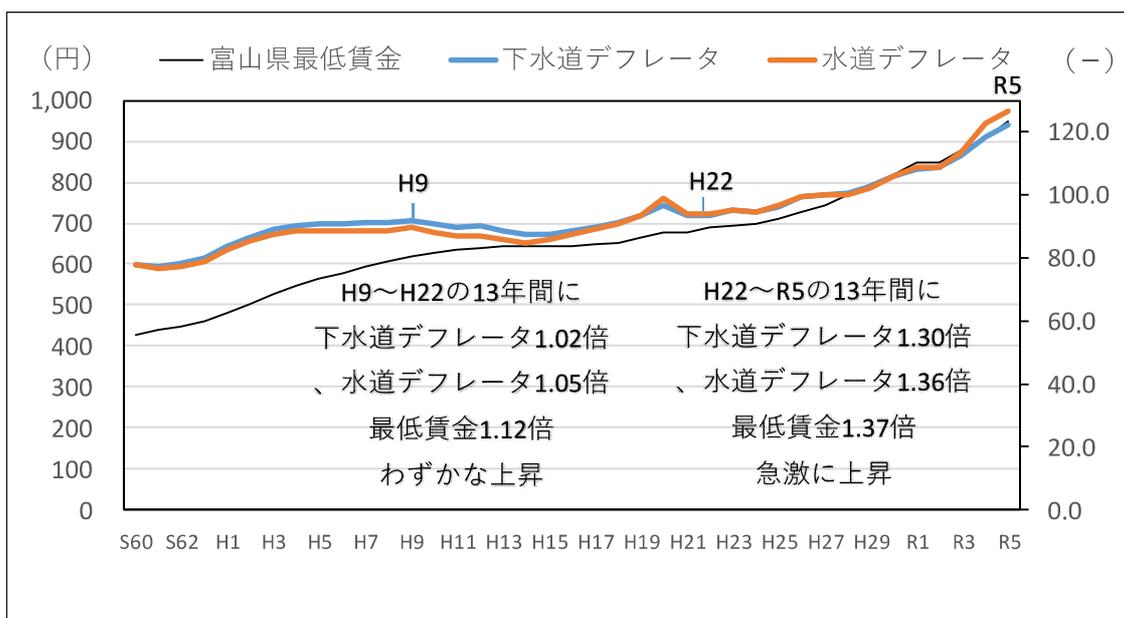


図9：物価・最低賃金の推移

2. 財政収支の見通し

今後の物価上昇等を考慮し、適切な施設整備を行った場合、図10に示すとおり令和8年度までは現行料金にて事業運営が可能となるが、更なる給水収益の減少や建設改良費の増加により、令和9年度以降に赤字となる見込みである。また図11に示すとおり内部留保資金も10億円を下回る見込みである。

そのため、令和9年度までに料金改定が必要となる見込みである。

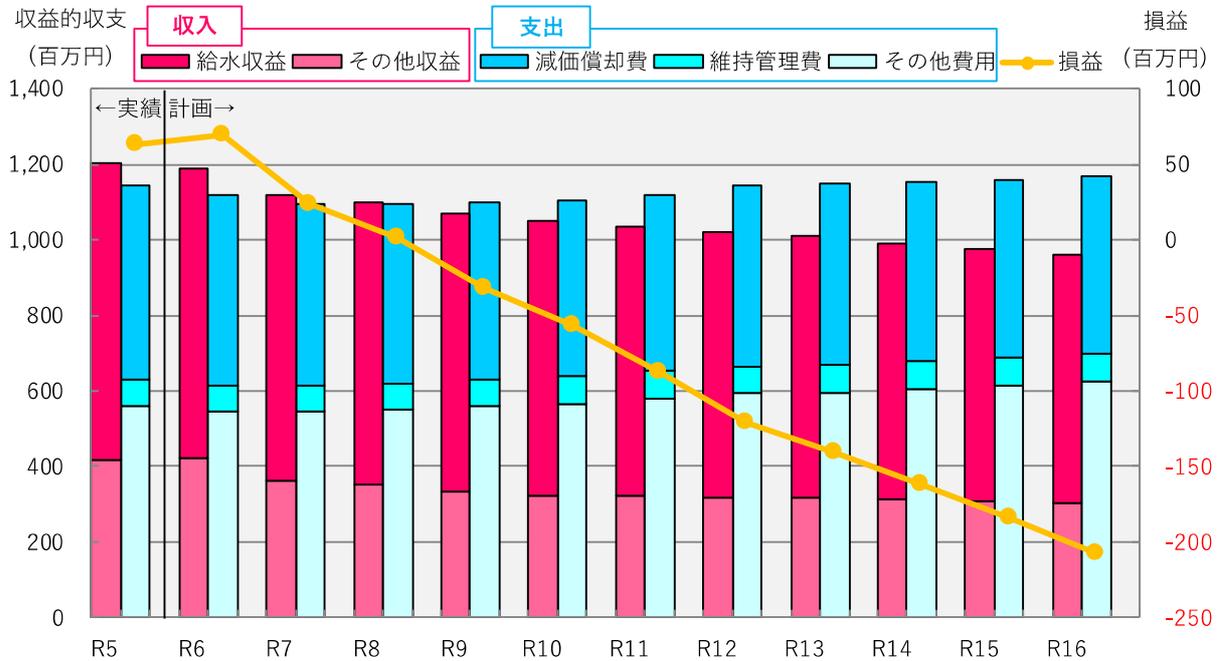


図10：収益的収支の見通し(現行料金)

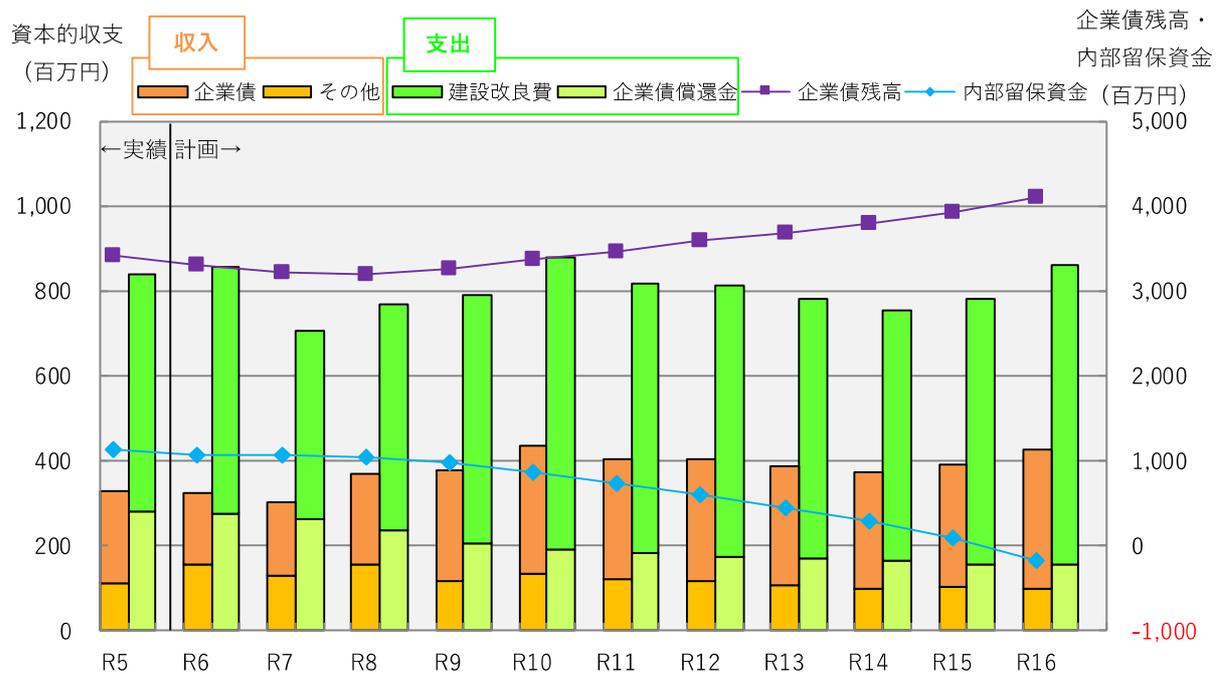
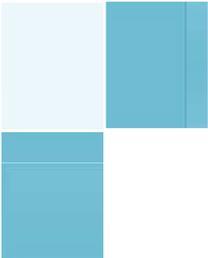


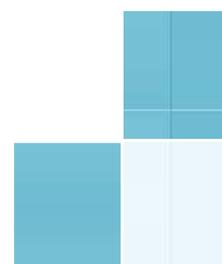
図11：資本的収支の見通し(現行料金)



南砺市上下水道料金検討委員会 第2回委員会資料（下水道事業）



令和6年11月18日



第1章 経営と料金の現状と課題

1. 財政収支の状況

本市下水道事業の直近実績では、図1に示すとおり、人口減少に伴って使用料収入は減少している。また、表1より、処理原価（下水を1m³処理するために要する費用）は類似団体平均より高額であり、使用料単価（有収水量1m³あたりの収入）も類似団体平均より高額である。そのため、使用料収入でどれだけの費用を賄えているかを示す経費回収率は、類似団体平均より若干高いが、100%を下回っている。これは、事業経営に必要な費用が使用料収入では賄いきれていないことを示す。



図1：収益的収支の実績と見通し 物価上昇なし

資本的収支については、図2のとおり、企業債償還はピークを越え、減少してきている。

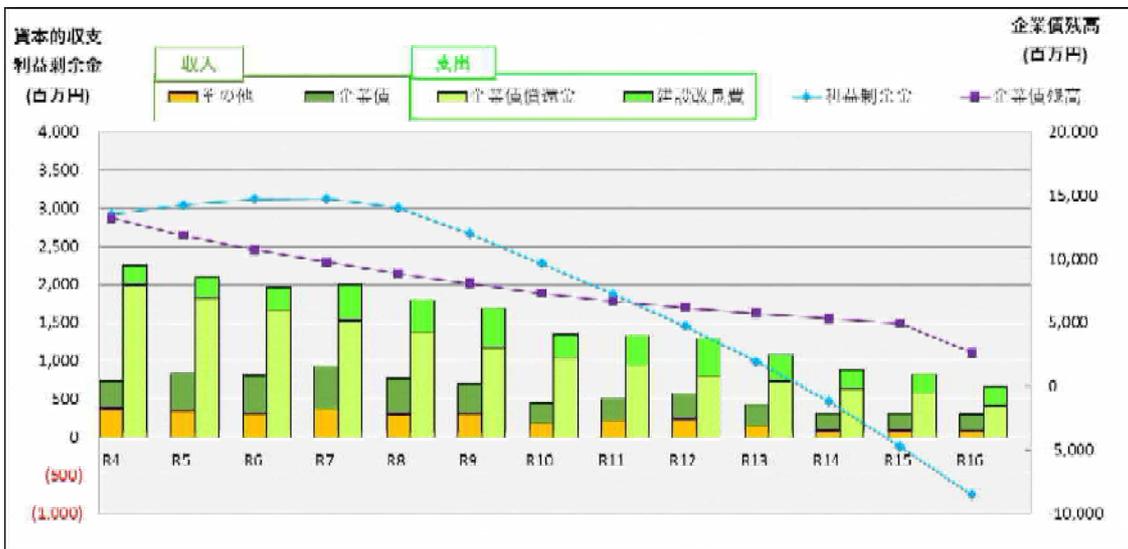


図2：資本的収支の実績と見通し 物価上昇なし

表1：経営指標の現状

| 事業種別 | 経営指標 | R1 | R2 | R3 | R4 | 類似団体平均R4 | 全国平均R4 |
|------|----------------------------|--------|--------|--------|--------|----------|--------|
| 公共 | 経費回収率 (%) | 93.9 | 96.7 | 96.6 | 93.7 | 90.3 | 97.6 |
| | 汚水処理原価 (円/m ³) | 213.76 | 172.06 | 208.06 | 216.51 | 192.01 | 138.09 |
| | 使用料単価 (円/m ³) | 200.68 | 166.44 | 200.95 | 202.78 | 173.43 | 134.81 |

2. 料金収入の状況

本市下水道事業では、使用水量段階別の件数内訳（図3）より、単身世帯と想定される使用水量10m³以下（基本水量以下）の調定件数が最も多く、更に増加傾向となり、全体の件数を増加させた。

用途別の件数（図4）は、一般家庭（アパート含む）が約97%を占める。

料金改定を検討するにあたっては、これらの高齢者等を中心とした単身世帯への過度な負担増加に配慮した料金体系の検討が必要となる。

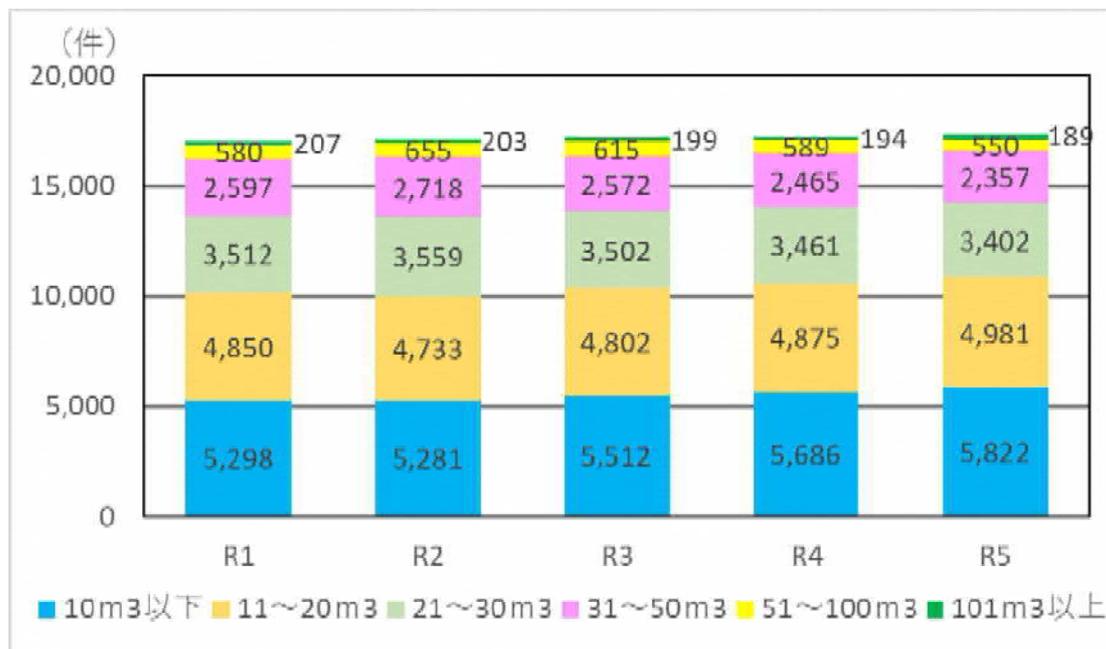


図3：水量別調定件数（1か月平均） ※1か月平均の調定件数≒利用者件数



図4：用途別調定件数の推移（1か月平均）

水量（図5）と調定額（図6）は、一般家庭（アパート含む）が約92%を占め、減少傾向を示す。

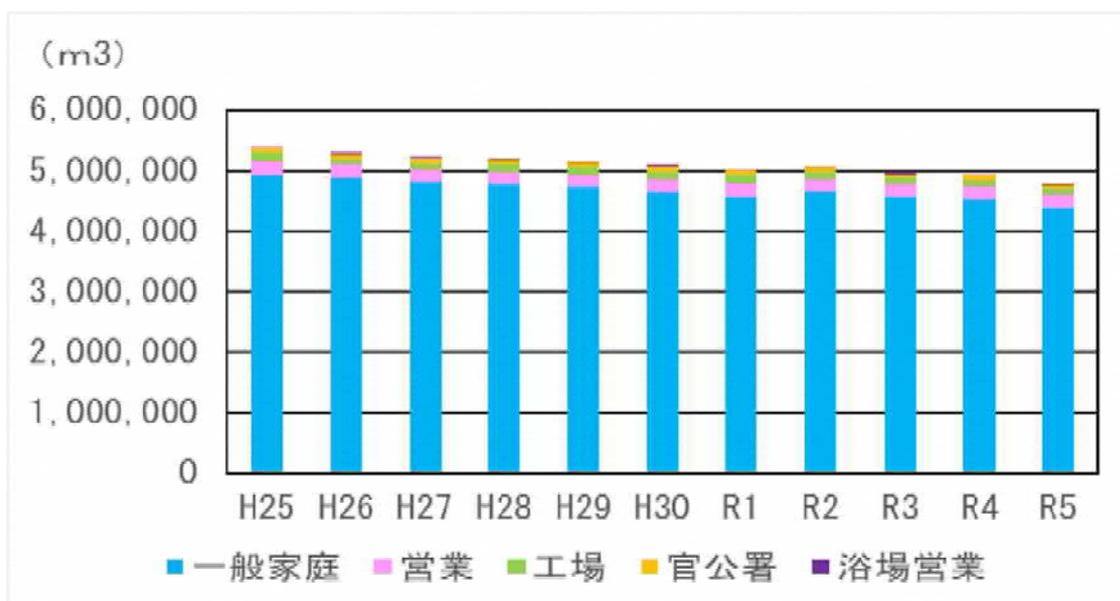


図5：用途別調定水量の推移（年間）



図6：用途別調定額の推移（税込み・年間）

調定額全体は減少した（図7）。基本料金は横ばいか、あるいは微増となり、調定額に占める比率が上昇した。



| 内訳 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 基本料金 | 374,158 | 385,968 | 391,502 | 393,804 | 396,674 | 397,693 | 400,306 | 235,523 | 407,510 | 408,722 | 410,288 |
| 超過料金 | 727,349 | 724,806 | 709,976 | 705,284 | 693,527 | 679,272 | 672,965 | 691,159 | 669,028 | 661,241 | 631,451 |
| 計 | 1,101,507 | 1,110,774 | 1,101,478 | 1,099,088 | 1,090,201 | 1,076,965 | 1,073,271 | 926,682 | 1,076,538 | 1,069,963 | 1,041,739 |
| 基本/計(%) | 34.0 | 34.7 | 35.5 | 35.8 | 36.4 | 36.9 | 37.3 | 25.4 | 37.9 | 38.2 | 39.4 |

図7：基本料金と超過料金の推移（税込み）

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、5ヶ月分（7月～11月使用分）の基本料金を減免した。

3. 料金水準と料金体系の状況

本市下水道事業の使用料は、1ヶ月当たり20³m³使用時に3,960円（税込み）と、富山県内の下水道事業体の中では最高額となっている。令和4年度の全国平均が3,011円、類似団体の平均が3,295円であることから、使用料は高額であると言える。

下水道使用料の比較を以下の図8に示す。

本市は、38³m³までは最も高額となるが、39³m³以上では高岡市が高額となる。これは、使用水量が多くなるにつれて単価が上がる累進の上り幅が異なるためである。

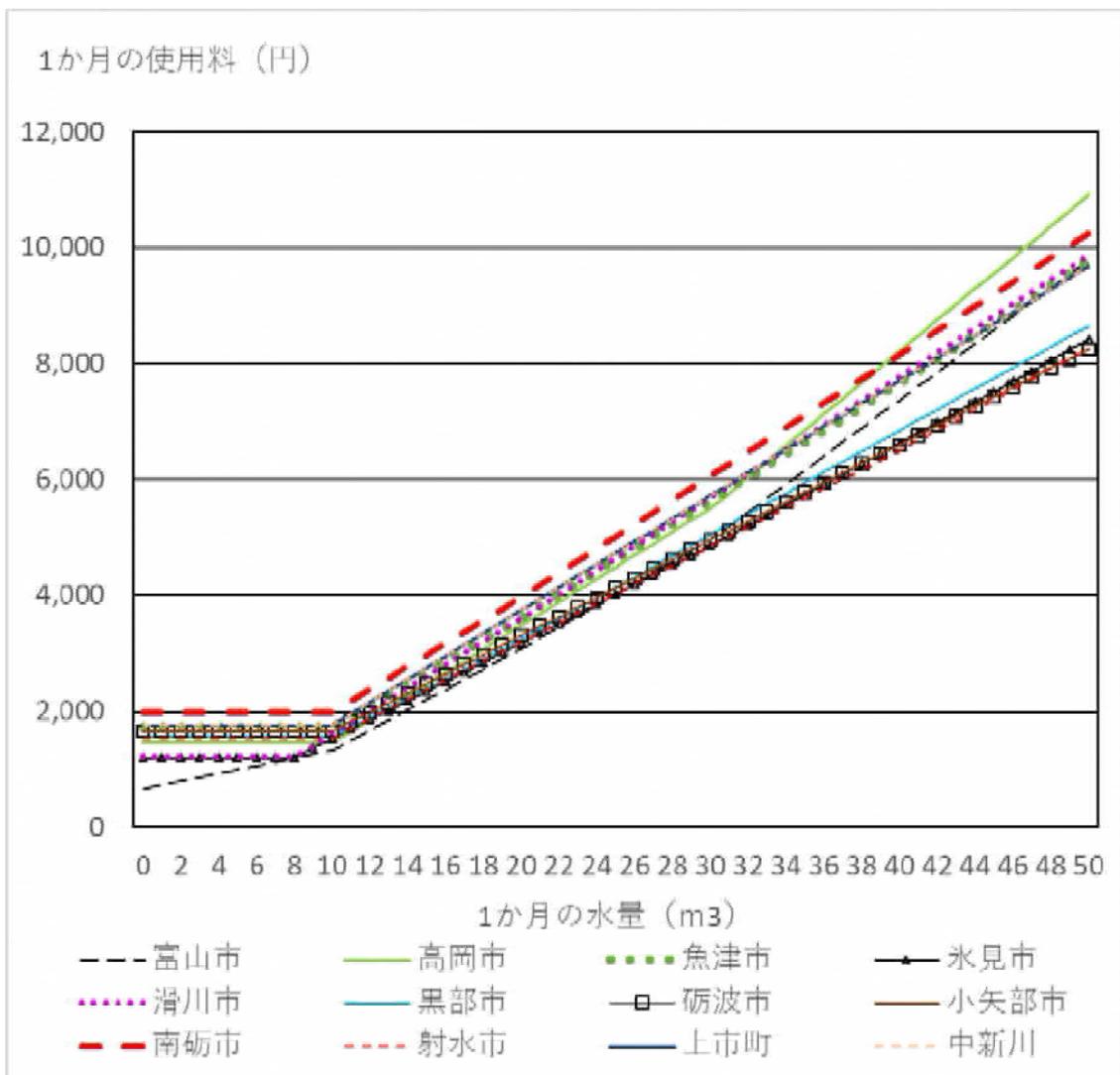


図8：県内事業体の下水道使用料（消費税10%込み）

※砺波市と小矢部市は同一値。上市町と中新川は同一値。

※黒部市は令和6年7月改定後の値。

※氷見市と滑川市は基本水量が8³m³のため、他と折れ点異なる。

※富山市は基本水量が0³m³のため、グラフに水平な部分がない。

※南砺市 基本水量10³m³まで 1,980円（消費税10%込み）

超過料金（1³m³あたり） 11~20³m³ 198円、（消費税10%込み）

21~30³m³ 209円、（消費税10%込み）

51³m³~ 220円、（消費税10%込み）

1人当たりの市税収入を支払能力の指標として比較すると、本市の下水道使用料は、県内事業者の中では、比較的高額である。つまり、収入に対し下水道使用料の負担が大きくなっていると言える（図9）。

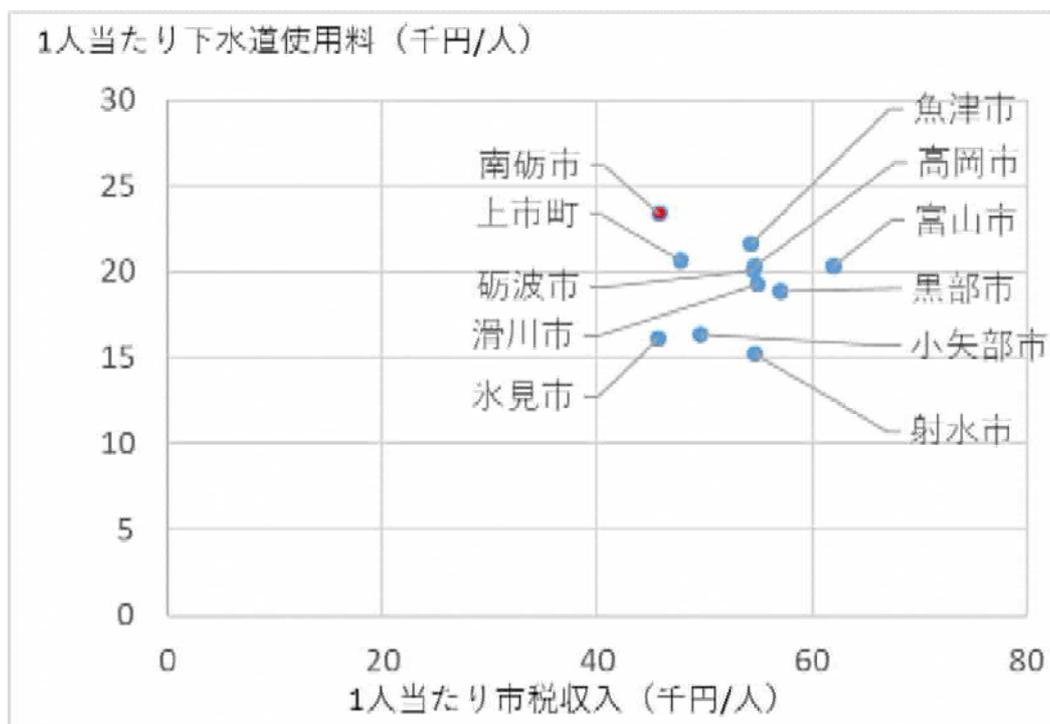


図9：市税収入と下水道使用料の比較（令和4年度）

※1人当たり市税収入＝市税収入／行政人口

※1人当たり下水道使用料＝公共下水道の使用料収入／公共下水道の水洗化人口

第2章 使用水量予測

平成26年度～令和5年度の上水道の給水人口と下水道事業の水洗化人口の実績（表2）から、表3のとおり、時系列推計を行い、上水道の給水人口と下水道事業の水洗化人口の令和6～16年度の比率は、95～99%とし、上水道の給水人口に比率を乗じて、下水道の水洗化人口の予測値とする。

令和元年度～令和5年度の、上水道の有収水量と下水道事業の有収水量の比率の実績（表4）より、表5のとおり、令和6～16年度の下水道事業の有収水量は、上水道の99%とする。

表2：上水道の給水人口と下水道の水洗化人口の比率の推移（実績）

| | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 上水道給水人口(人) | 52,973 | 52,405 | 51,700 | 50,941 | 50,304 |
| 下水道水洗化人口(人) | 48,530 | 48,311 | 47,964 | 47,454 | 47,064 |
| 下水道/上水道 (-) | 0.916127 | 0.921878 | 0.927737 | 0.931548 | 0.935592 |

| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 上水道給水人口(人) | 49,489 | 48,720 | 47,822 | 46,936 | 46,114 |
| 下水道水洗化人口(人) | 46,624 | 45,842 | 45,064 | 44,434 | 43,893 |
| 下水道/上水道 (-) | 0.942108 | 0.940928 | 0.942328 | 0.946693 | 0.951837 |

表3：上水道の給水人口と下水道の水洗化人口の比率の推移（予測）

| | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 上水道給水人口(人) | 45,230 | 44,336 | 43,574 | 42,810 | 42,048 | 41,285 |
| 下水道水洗化人口(人) | 43,253 | 42,563 | 41,992 | 41,414 | 40,833 | 40,245 |
| 下水道/上水道 (-) | 0.9563 | 0.96 | 0.9637 | 0.9674 | 0.9711 | 0.9748 |

| | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 上水道給水人口(人) | 40,523 | 39,790 | 39,058 | 38,325 | 37,593 |
| 下水道水洗化人口(人) | 39,652 | 39,082 | 38,507 | 37,926 | 37,341 |
| 下水道/上水道 (-) | 0.9785 | 0.9822 | 0.9859 | 0.9896 | 0.9933 |

表4：上水道と下水道の有収水量の比率の推移（実績）

| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 上水道(m3/年) | 5,094,623 | 5,154,253 | 5,032,853 | 5,006,403 | 4,816,525 |
| 下水道(m3/年) | 5,013,206 | 5,071,710 | 4,962,534 | 4,931,863 | 4,766,815 |
| 下水/上水(-) | 0.984 | 0.984 | 0.986 | 0.985 | 0.990 |

表 5 : 下水道の有収水量の推移 (予測)

| | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 上水道(m3/年) | 4,730,400 | 4,648,640 | 4,578,195 | 4,520,100 | 4,438,765 | 4,370,145 |
| 下水道(m3/年) | 4,683,096 | 4,602,154 | 4,532,413 | 4,474,899 | 4,394,377 | 4,326,444 |
| 下水/上水(-) | 0.990 | 0.990 | 0.990 | 0.990 | 0.990 | 0.990 |

| | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 上水道(m3/年) | 4,302,255 | 4,248,528 | 4,172,315 | 4,108,440 | 4,044,565 |
| 下水道(m3/年) | 4,259,232 | 4,206,043 | 4,130,592 | 4,067,356 | 4,004,119 |
| 下水/上水(-) | 0.990 | 0.990 | 0.990 | 0.990 | 0.990 |

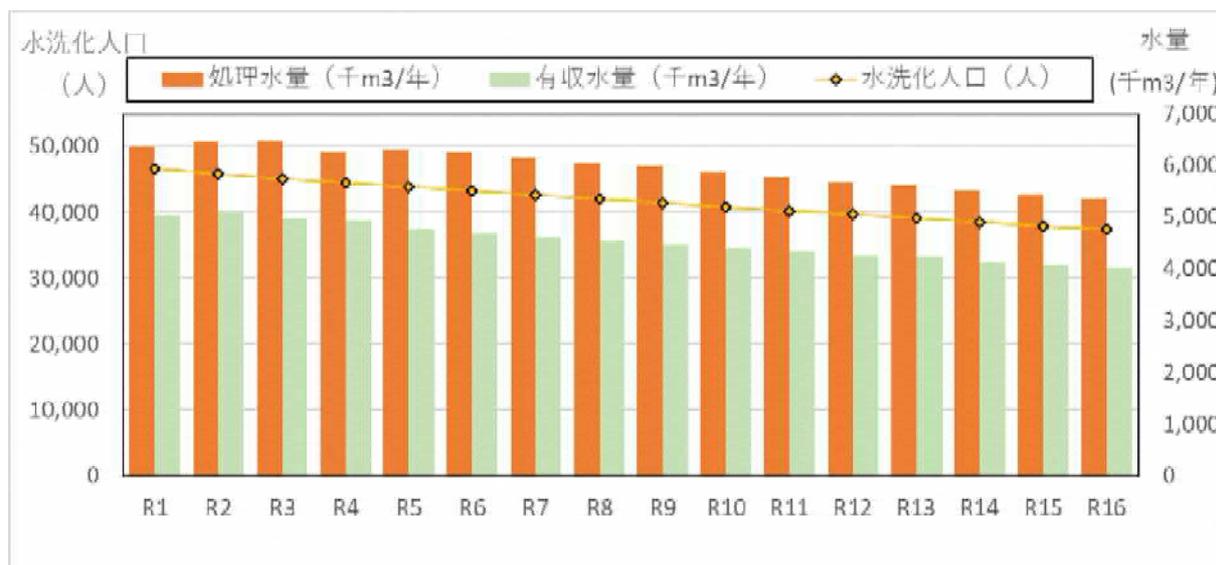


図 10 : 計画水洗化人口及び計画有収水量、計画処理水量の推移

図 10 に示す通り、減少傾向を示している水洗化人口は、今後も減少が継続するものと予想される。それにともない、排水処理量、有収水量も減少する見込みである。

計画処理水量は、有収水量と不明水の合計となる。有収率（図 1 1）は、平成 2 2 年度より、変動しながら低下してきた。今後も低下が予想される。計画では 0. 7 5 0 とする。

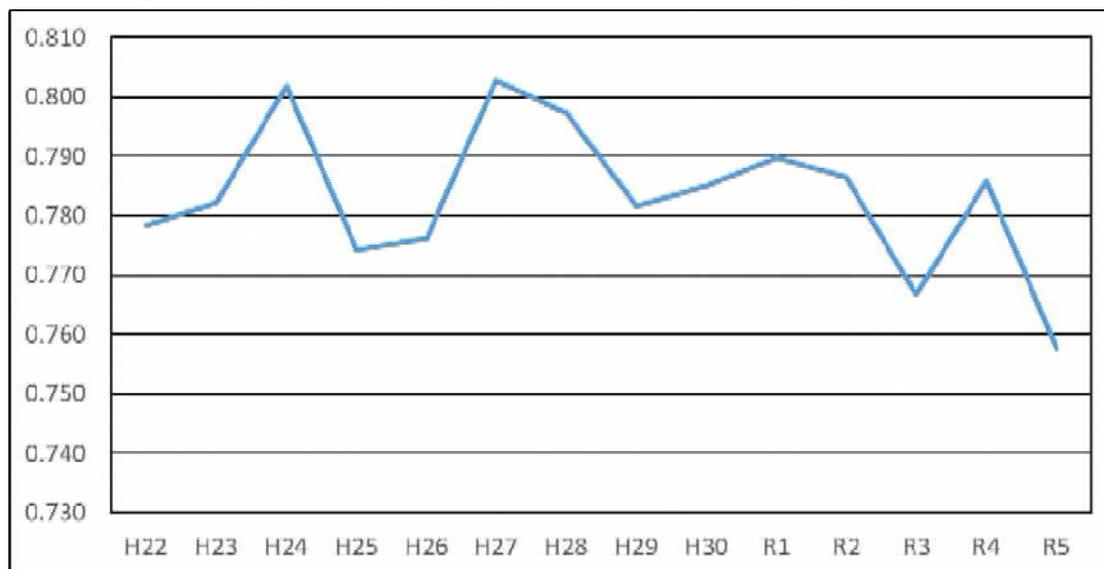


図 1 1 : 有収率の推移（污水処理事業全体の加重平均）

有収水量を有収率で除して、計画処理水量を得る（表 6）。

表 6 : 処理水量の推移（予測）

| | | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
| 処理水量(m3/年) | 6,244,128 | 6,136,205 | 6,043,217 | 5,966,532 | 5,859,169 | 5,768,592 |
| 有収水量(m3/年) | 4,683,096 | 4,602,154 | 4,532,413 | 4,474,899 | 4,394,377 | 4,326,444 |
| 有収率(-) | 0.750 | 0.750 | 0.750 | 0.750 | 0.750 | 0.750 |

| | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 |
| 処理水量(m3/年) | 5,678,976 | 5,608,057 | 5,507,456 | 5,423,141 | 5,338,825 |
| 有収水量(m3/年) | 4,259,232 | 4,206,043 | 4,130,592 | 4,067,356 | 4,004,119 |
| 有収率(-) | 0.750 | 0.750 | 0.750 | 0.750 | 0.750 |

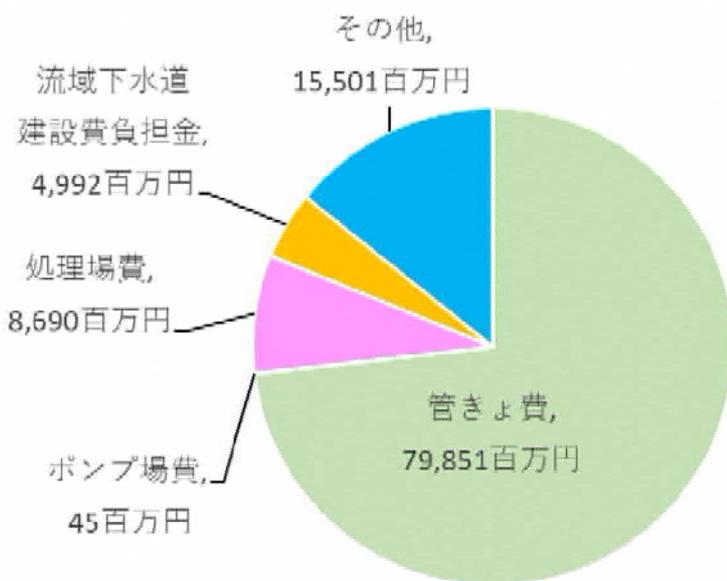
第3章 投資計画

1. 施設整備に係る費用

本市下水道事業における集水から処理までの水処理フロー及び各工程に必要な概算整備費用の実績（昭和46年度～令和5年度）を以下に示す（図12）。

本市下水道事業の資産の大部分（約73%）は管きよである。

本市は広い面積を有しているが、山間部が多く散居村が広がっている地域特性から、他の下水道事業体と比較して施設数が多く、管きよ延長も長い。このような地域特性から、施設統廃合は難しい状況であり、令和6年度以降は、平野部の農集の処理場4か所の統廃合が限度と見込まれる。



| 管きよ費 | ポンプ場費 | 処理場費 | 流域下水道建設費負担金 | その他 | 合計 |
|-----------|-------|----------|-------------|-----------|------------|
| 79,851百万円 | 45百万円 | 8,690百万円 | 4,992百万円 | 15,501百万円 | 109,079百万円 |

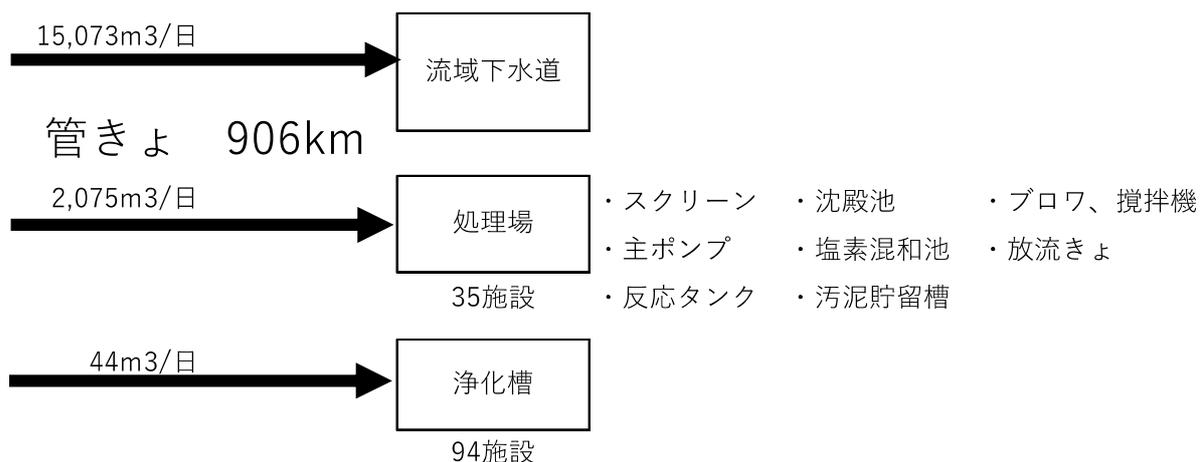


図12：下水処理種目別概算整備費（昭和46年度～令和5年度までの実績）

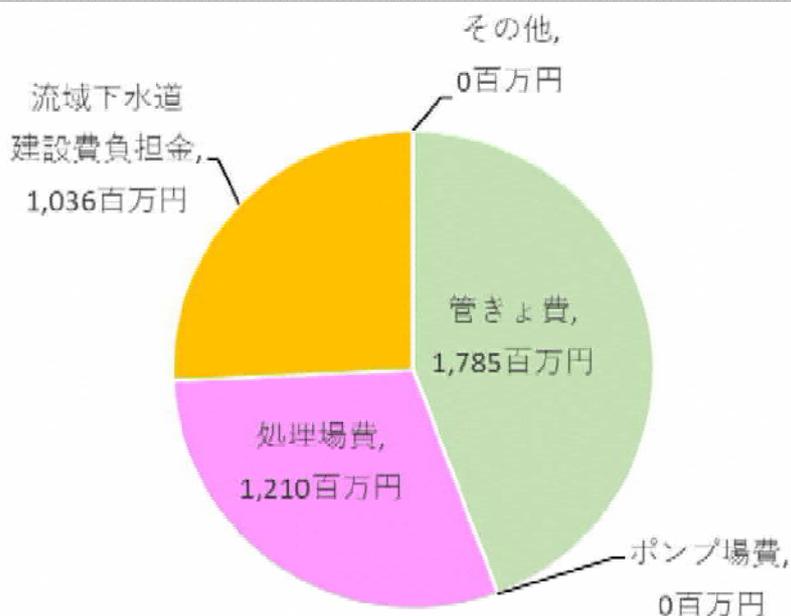
※流域下水道は富山県が建設と維持管理を行い、市が建設費の一部と維持管理費を負担する仕組み。

※処理水量は令和5年度の年間処理水量/366日による。

2. 年次別施設整備計画

本市下水道事業における概算整備費用（令和6～15年度）の概要を以下に示す。

管きよ、処理場、流域下水道建設負担金の合計は、年度当り最大5億円程度になるが、次第に減少して2億5千万円以下となる。管きよの比率は24～63%、平均44%となる。



| 管きよ費 | ポンプ場費 | 処理場費 | 流域下水道建設費負担金 | その他 | 合計 |
|----------|-------|----------|-------------|------|----------|
| 1,785百万円 | 0百万円 | 1,210百万円 | 1,036百万円 | 0百万円 | 4,031百万円 |

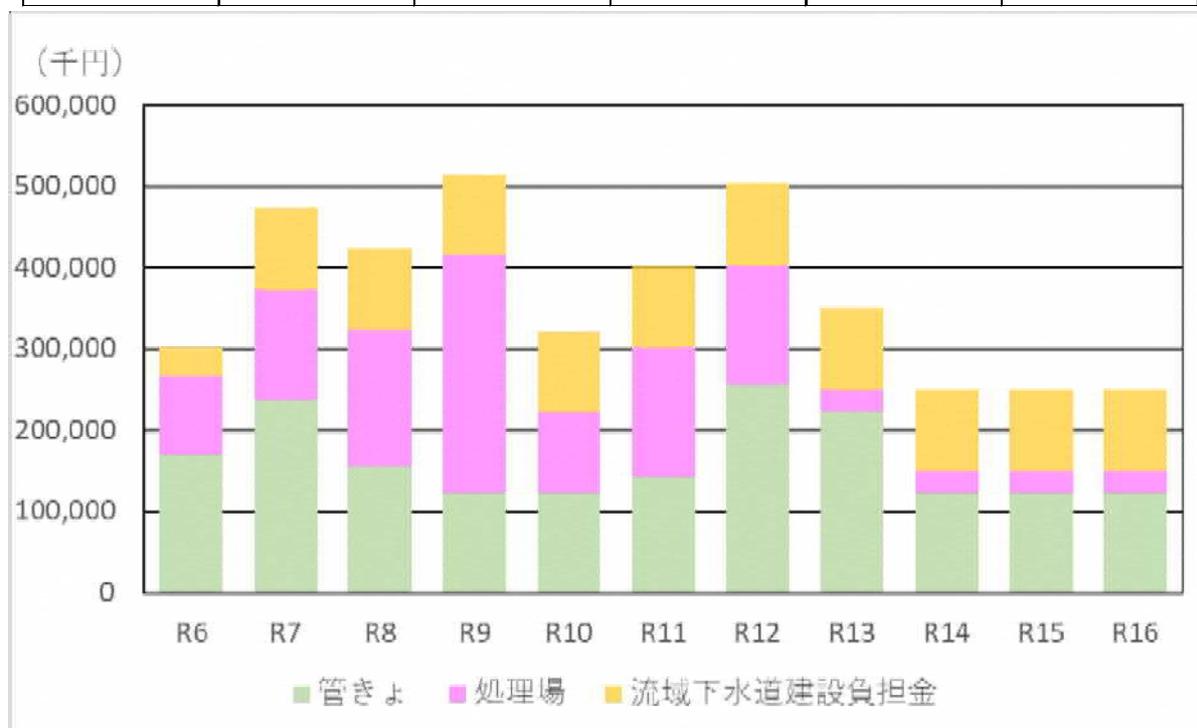


図13：建設改良費の推移

※管きよ：農集（利波川、池川、太美山、西太美）を流域下水道に接続。

※処理場：農集の流域下水道へ接続に伴い、処理場の統廃合を行う。また、設備更新を主として行う。

第4章 財政収支の見通し

1. 人件費・物価上昇の反映

富山県の平成22～令和5年の最低賃金および下水道デフレータ、水道デフレータの変動を参考に、毎年2%増を見込む。毎年2%増は、最低賃金の上昇実績より若干低い値である。

$$(1+2/100)^{13} = 1.294 \text{ 倍} \approx 1.30$$

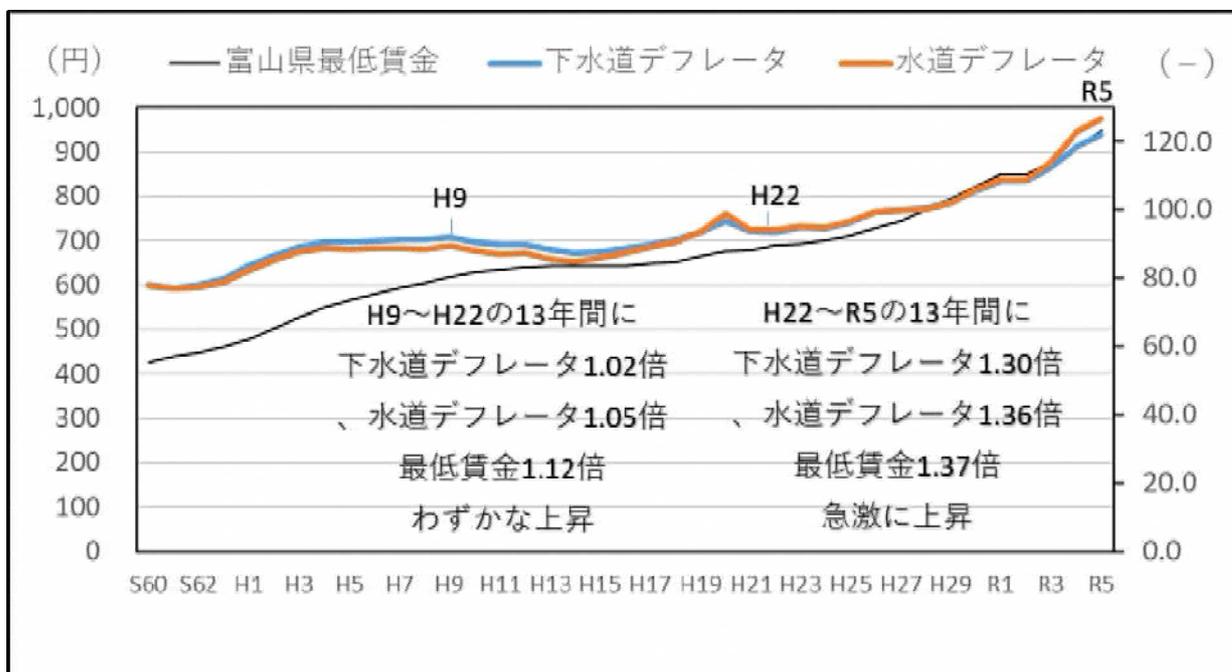


図14：物価・最低賃金の推移

2. 財政収支の見通し

収益的収支は、令和6年度までは、黒字であるが、現行料金のままでは令和7年度以降は赤字となる可能性がある（図15）。

赤字は年々拡大し、令和16年度には9億円程度となる。

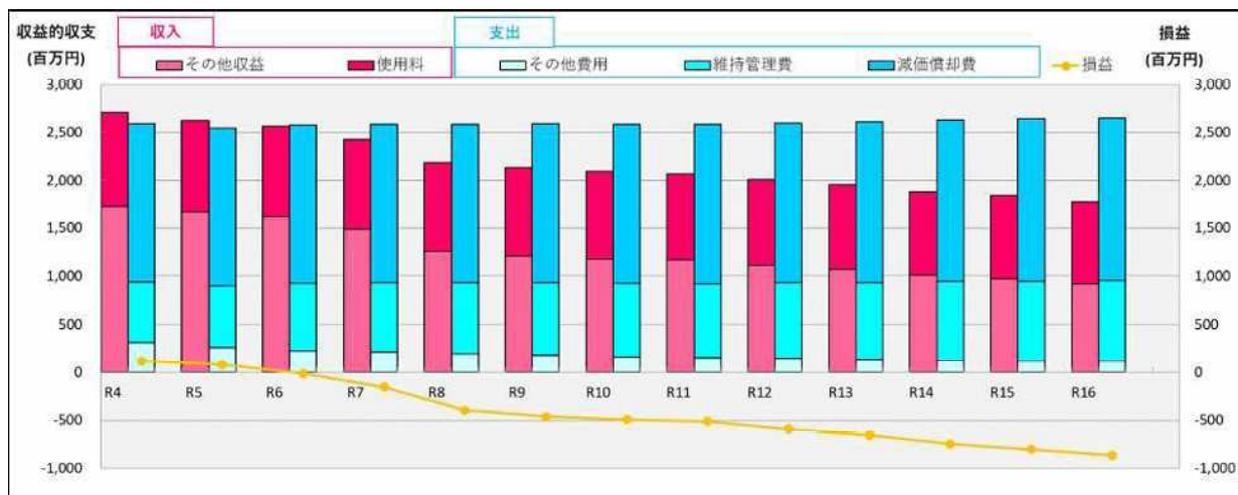


図15：収益的収支の見通し 維持管理費・総係費は物価上昇2%を見込む（現行料金）

※総係費は、料金徴収等に必要経費

資本的収支（図16）は、現在は下水道整備率99.6%に達し、企業債の償還はピークを越え徐々に減少してきているが、今後、下水道処理施設の老朽化対応、長寿命化などの対策を計画的に進めていくことにより、現在横這いになっている建設改良費も増加の可能性がある。

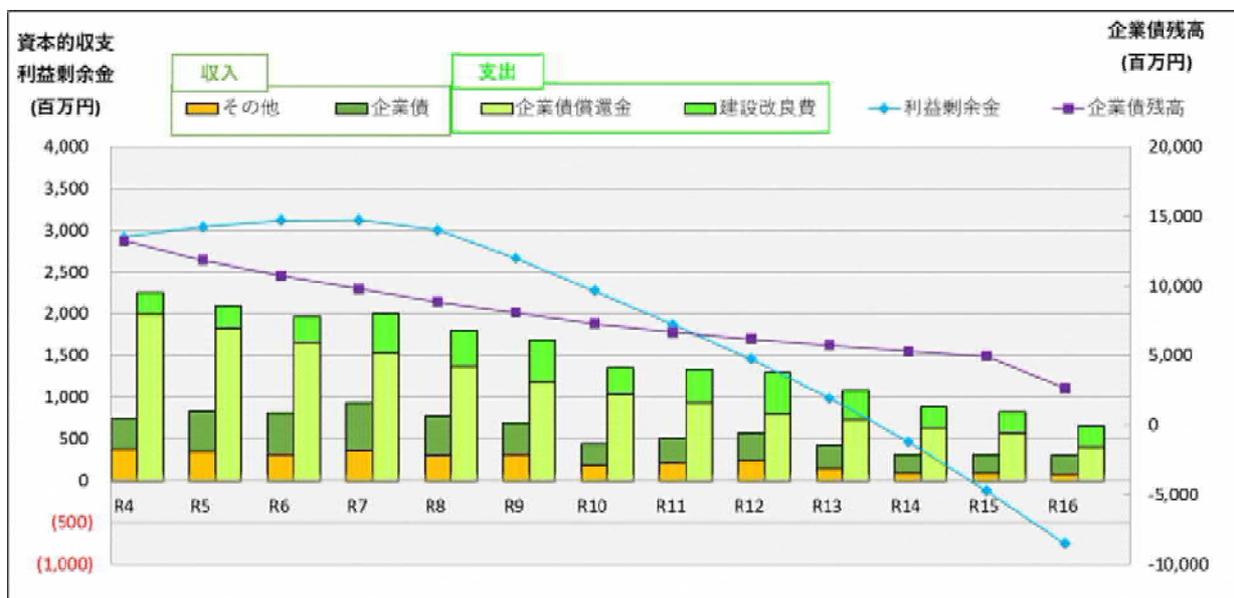


図16：資本的収支の見通し（現行料金）

南砺市上下水道事業料金検討委員会 第1回委員会ご意見一覧

| ご意見内容 | | 該当資料頁 | |
|-------|---|-------|-------|
| No.1 | 氷見市、入善町の水道料金設定について知りたい。 | 水道-3 | |
| No.2 | 他の類似団体との単純比較だけではなく、1人当たり料金、1人当たり収入等による比較が必要ではないか。 | 水道-4 | 下水-6 |
| No.3 | 浄水を作る工程表とその設備費用の資料があれば教えてください。 | 水道-6 | 下水-10 |